

5月の植物

ニワゼキショウ (アヤメ科)

Sisyrinchium rosulatum E.P.Bicknell

庭、公園、空き地、道路沿いなど、人の生活圏に最も近い場所に花を咲かせる植物にニワゼキショウがある。その名前は、水辺に生えるサトイモ科のセキショウに似て庭に生えていることからきている。花弁が6枚あるように見えるが、正確には内側3枚が花弁で、外側3枚ががくである。花の色には紅紫色と白色の2タイプがあり、遺伝子の優性、劣性の関係で発現し、メンデルの遺伝の法則に従うとされている。

今ではごく普通の身近な植物であるが、北米原産で明治中期に渡来した帰化植物である。佐賀県で採られた最も古い標本は1939年(昭和14年)塩田町の個体なので、かなり以前から身近な植物だったのであろう。筆者は、1999年5月に大和町で、ニワゼキショウによく似ているが草丈が50cm以上もある植物を発見した。花色は薄い水色で、ニワゼキショウの白花に似た色であった。この植物はオオニワゼキショウといい、名前の通り、草丈大きく果実も大きいのが特徴であるが、花は反対にニワゼキショウより小さい。新しく侵入した帰化植物かと思ったら、その年に七山村、肥前町、浜玉町、佐賀市でも確認することになり、すでに広く広がっていることが判明した。多くの場合、除草作業により草丈が低くなっており、白花のニワゼキショウと混同していたと思われる。2017年5月には、武雄の佐賀県立宇宙科学館の職員通用口近くでキバナニワゼキショウを確認した。これも新しい帰化植物である。ニワゼキショウの仲間は北米に150種ほどあると言われており、今後も新たなニワゼキショウが入ってくるかもしれない。

(上赤博文)



ニワゼキショウ白花



ニワゼキショウ紅紫色花



キバナニワゼキショウ



オオニワゼキショウ